

子ども・子育て支援に関する実践と 研究を通じた学生の学び

瀬々倉 玉奈

1. 京都女子大学発達教育学部児童学科における子ども・子育て支援

本学の児童学科では、時代の要請を受けた地域貢献と、それに伴う保育者養成の一環として、子ども・子育て支援活動を展開している。2016年度から京都市の「学まち推進型」連携活動補助事業や京都女子大学内の教育機器備品予算、FD活動予算、教育活動予算等の助成を受けながら、子育て支援ルームを開設し、子ども・子育て支援を学科全体で行ってきた。「京都女子大学親子支援ひろば『ぴっぱらん』（以下、「ぴっぱらん」と略す。）と名付けた活動は、学生の学びという観点から言えば、アクティブ・ラーニングの最たるものである。講義内外を通して考え得る限りの機会を活用し、学年を超えた多くの学生を対象に様々な形で参画できるよう児童学科の教員らの連携によって活動してきた（瀬々倉，2017・2018・2019）。

特に、ぴっぱらん活動を開始した当初の筆者のゼミに所属した学生たちは、親子にとって安全で心地よい学内環境のアセスメントや整備、何もないゼロからの子育て支援ルームの開設準備、玩具類の選定、キャラクター作成（図1）等にも携わっている。現在、ゼミの3回生時には、クローズド・グループによる支援プログラムを企画・実行して密に親子と関わり、4回生時にはその活動を対象とした卒業研究を行うという親子支援実践－研究スタイルが整いつつある。

以下は、ぴっぱらん活動を開始するにあたって、学科内で作成した活動のコンセプトである。



図1 ぴっぱらんのキャラクター（前川，2017）

〈京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらんのコンセプト〉

- ①未就園児とその保護者とを対象の中心にする
- ②家庭ではなかなか経験できない豊かな遊び体験を提供する
- ③子どものみならず、保護者にとっても意味のある体験を提供する
- ④豊かな親子関係をつむぐことに貢献する
- ⑤親子との関わりの中で、学生が親子への学びを深める

本稿では、2018年度に教育活動予算による「親子支援活動『ぴっぱらん』に関する映像記録のデータ化」事業（以下、「本事業」と略す。）において行った複数の活動それぞれについて、参加した学生を対象とした質問紙調査を行った結果を報告する。なお、自由記述欄については、一部のみ報告し、別の機会に改めて分析することとする。

2. 目的と方法

(1) 本事業に関わる親子支援に関する諸活動の概要

本事業によって、以下の諸活動が行われた。なお、大学院生2名については、本事業の助成対象外であるが、1名の元幼稚園教諭はTA（Teaching Assistant）として、もう1名はカメラ撮影者として協力した。

本事業における親子支援に関する諸活動（2018年度）

- ①ぴっぱらんシリーズの企画・実施と記録映像化、および、その研究（5月-12月）：
〈1回生、2回生、3回生、4回生、大学院生〉
- ②学外施設訪問と講話：
「東山区子どもはぐくみ室」（5月25日）〈3回生、4回生、大学院生〉
神戸市での子ども・子育て支援施設訪問と担当者の講話2月28日〈3回生〉
神戸市総合児童センター こべっこランドの「よちよち広場」
株式会社ファミリア本店

①ぴっぱらんシリーズの企画・実施と記録映像化、および、その研究

通常のゼミの時間に加えて、毎週1-2コマ分を使用して、企画や準備、練習を行った。異なる予算で実施した「ぴっぱらんど」と、本事業によって行ったぴっぱらんシリーズとの違いが明確になるように表1に示す。表2は、2018年度ぴっぱらんシリーズのプログラムである。

ぴっぱらんシリーズは、クローズド・グループで行う連続シリーズであること、親子分離によって、子どもにも保護者にも心理発達促進的なアプローチを行うこと、子ども1人に対して学生1人が関わること、学生と保育者及び、心理職という異なる立場の協働によっておこなう親子支援であることに特徴がある。

また、原則として3回生は、子どもと1対1で密に関わり、4回の連続性の中で、子どもそれぞれに適したアプローチを行った。4回生は、子どもと3回生の活動と、保護者対象のヨガ・インストラクターや心理職によるプログラムを映像記録化して、今後の活動の参考や卒業研究に関わるデータとした。また、保護者対象のプログラムについては、毎年、各回毎の活動後に行っている質問紙調査項目に、学生の研究テーマに沿った質問項目を加えて参加者に協力を依頼した。さらに、ぴっぱらんシリーズ最終回に行う保護者支援プログラム「おしゃべりサロン」においては、保護者が日々の子育てにまつわる自身の思

表1 2018年度 京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらん活動の2つの形式

親子支援ひろばぴっぱらん		
	ぴっぱらんど	ぴっぱらんシリーズ
実施形式の特徴	広く親子に開放	親子分離が原則
参加者	未就園児を中心とした 不特定多数の親子	1歳6ヶ月～2歳児の 親子6組
申込み	不要	申し込み制
頻度	年に8回	4回（週に一度）
内容	ノン・プログラム	プログラムあり
スタッフのかかわり方	見守り	子ども1人に担当者1人 保護者担当複数人
学生の主な学び	広く親子にかかわり、発達段階の 特徴などを理解し、その対応に慣れる	親子に密に関わり、連続性の中で 変化の過程によりそう
学生や教員スタッフの専門分野	多様	乳幼児精神保健学ゼミ生、院生、 臨床心理士、幼稚園教諭・保育士

表2 2018年度 ぴっぱらんシリーズのプログラム

日程	時間	子どもの活動内容	保護者の活動内容
7月13日(金)	9:30～11:00	こねこね、ねりねり ～こめこ かたくりこ ねんど～ ※初回のみ親子合同	
7月27日(金)	9:30～11:00	手形のお化け、ヒュードロロ	おしゃべり・さろん
8月3日(金)	9:30～11:00	ぺたぺた、バツタン ～フィンガーペインティング～	らくがきゲーム ～子どもと心を通わせる手がかり～
8月10日(金)	9:30～11:30	元気いっぱい！楽しく身体を動かそう！	ヨガ ～こころとからだをほぐす～

*豪雨による警報や猛暑の影響で、日時については当初の予定を変更して行った。

いを内省しつつ、他の参加者との交流を深めることができるように心理職がファシリテーターを務めて、その話題の中にも4回生の卒業研究に関するテーマを加えて参加者に協力を依頼した。

②学外施設訪問と講話：

東山区子どもはぐくみ室（2018年5月25日）〈3回生、4回生、大学院生〉

本学所在地である東山区の子どもはぐくみ室長や保健師による、東山区における乳幼児健診やその後のフォロー等について、多くの資料をもとにした講話を受講した。神社仏閣や店舗が多く、子どもの出生率は京都市の中でも低いなどの特徴が有ることが明示された。なお、ぴっぱらんシリーズを開始した2017年度には、東山区に限らず、京都市全体の子ども・子育て支援状況などについて、筆者とTAが説明を受けている。

神戸市での子ども・子育て支援施設訪問と担当者の講話（2019年2月28日午前）〈3回生〉

神戸市総合児童センター こべっこランドの「よちよち広場」

ぴっぱらんシリーズの対象年齢と重なる1～2歳児の子どもと保護者とを対象としてい

る「よちよち広場」に参加し終了後に担当者の説明を受けた。

シンプルなボール一つでも、親子がさまざまな方法で楽しんで遊んでいる様子や、参加時のスタンプカード、大勢の参加者を惹き付ける担当者のリーダーシップのあり方などが直接参考となり、後のぴっぱらんシリーズに、取り入れることとなった。

株式会社ファミリア本店（2019年2月28日午後）〈3回生〉

公的な子ども・子育て支援とは異なる視点から、最新の育児製品や、店舗全体の子ども・子育て支援に関するコンセプトなどについて店長から説明を受けた。

(2) 調査の目的と方法

2018年度教育活動予算による事業「親子支援活動『ぴっぱらん』に関する映像記録のデータ化」の一貫として行われた諸活動に関わった学生が、何を学び取ることが出来たかを調査することで、今後の親子支援活動、および、その活動に関わる学生の学びの充実化に資するために、以下の方法により調査を行った。

調査時期：2019年3月（各活動がすべて終わった時点）

調査対象：2018年度に行われた本事業に中心となって参加した学生。

1回生1名、2回生2名、3回生8名、4回生5名、大学院生2名 計、18名

調査方法：質問紙法

質問項目は、本事業における各活動についての満足度や認識について、どの程度当てはまるかを5件法で尋ねる選択式の質問項目と、自由記述を求める項目とで構成した。

回答方法：京都女子大学ポータル内に設けた「ぴっぱらんコミュニティ」（瀬々倉，2018）のアンケート機能を利用して回答を求めた。

(3) 結果

活動ごとに参加・回答者数が異なるため、各表に総数Nを記載している。

表3に、事業全体について、何を学びとったかを尋ねた結果を示す。

また、自由記述欄の一部を表示する。下線は、筆者が加えたものである。

4回生A：ぴっぱらんシリーズを動画や写真で記録することによって、活動中には気づかなかった子どもの楽しそうな表情や、興味を示したものについて知ることができ、今後の活動での子どもとの関わりの中で生かせるものが多く得られたと感じた。

4回生B：ぴっぱらんシリーズは1回きりではなく連続で行われるため、回数を重ねるご

とに子どものことを深く知ることができ、子ども理解もより深まった。また、保護者同士の座談会は、普段はなかなか知ることのできない保護者の子育てへの思いや悩みを知れる貴重な機会となった。

表3 事業全体について (N=16)

項目	平均値	標準偏差
参加することで満足できた	4.75	.447
子ども子育て支援にやりがいを感じた	4.67	.617
保護者の思いを知ることができた	4.60	.632
保護者との関わりは新鮮だった	4.53	.834
子ども子育て支援に興味が強くなった	4.50	.632
子ども子育て支援について理解できた	4.40	.507
映像を活用した研究ができた・したい	4.13	.885
親子支援実践の質的研究の面白さが分かった	4.07	.799
映像化で実施後に客観視することができた	4.00	.816
子どもとの関わりは新鮮だった	4.00	.816
子どもに合った対応について学ぶことができた	4.00	.894
他者に映像を活用して説明することができた	3.47	.743
親子支援実践の質的研究は難しかった(点数は反転)	2.93	.884
保護者との関わりは難しかった(点数は反転)	2.87	.834
子どもとの関わりは難しかった(点数は反転)	2.56	1.031

3回生C：子どもへの関わりや援助、支援については、授業での知識の習得に加え、実習で実際に子どもと関わる中でさまざまなことを学ぶ機会がありますが、保護者の方への支援は授業での学び以外ではなかなかお話しする機会がありません。この事業に参加することで、様々な環境で子育てをしている保護者の思いや悩みをお聞きすることができました。

また実際に子育て支援を行っている別の事業にも参加することで、母親の置かれている子育て環境を知ることになりました。子育て支援が充実していることも感じましたし、むしろ不足している場面も感じることができ、子育て支援についてより深く考えなければならないと感じました。

1回生D：数回しか参加できなかったが、普段滅多に関わることが出来ない子どもたちと関わることができ良かった。

また、子どもたちの様子や先輩方の対応を見て知ることができたので勉強になった。

他の学生の記述においても、子どもだけでなく、保護者と関わる貴重な機会であったとしている内容が多く認められた。

表4に、東山区子どもはぐくみ室での講義についての調査結果を示す。市区町村での親子支援について、十分理解できたことが分かる。

表4 東山区子どもはぐくみ室の講義（N=11）

項目	平均値	標準偏差
参加することで満足できた	4.55	.522
市区町村での親子支援について理解できた	4.27	.467

表5に、こべっこランドのよちよち広場に参加した結果を示す。多数の親子を男性保育者がリードしていた方法が、特に勉強になったことが示されている。

表5 子ども子育て・支援施設（こべっこランド）訪問（N=8）

項目	平均値	標準偏差
参加することで満足できた	4.75	.463
環境設定や玩具の利用方法が勉強になった	4.38	.518
指導員のリードの仕方が勉強になった	4.88	.354
プログラムが勉強になった	4.13	.641

表6に、ファミリア本店に関する調査結果を示す。これまでは、筆者も講義等であまり触れてこなかった、商業視点からの親子へのサービス提供について、全員が非常に勉強になったとしている。

表6 子ども子育て・支援施設（ファミリア）訪問（N=8）

項目	平均値	標準偏差
参加することで満足できた	4.75	.463
育児雑貨の情報を得ることができた	4.63	.518
親子へのサービス提供について勉強になった	5.00	.000

考察

(1) 子ども・子育て支援活動に関わった学生の学び

質問紙調査の内の選択肢によって構成された質問項目の結果から、以下のことが明らかになった。

- ①活動に参加した学生の満足度が非常に高い
- ②親子と密に交流することの難しさや新鮮さを感じたと同時に、難しさも再確認した
- ③連続性の中で親子に関わることで、親子や学生自身の変化に気づく
- ④親子支援活動を改めて客観視するために、活動を映像記録化して行った質的研究に意義を感じている
- ⑤子ども・子育て支援の多様なあり方を知った上で、自分たちが実施可能な支援について考えることができた

児童学科に所属するほとんどの学生は、幼稚園教育実習 2 回、保育実習 2 回、施設実習 1 回、それぞれ 2 週間ずつの合計 5 回、10 週にも及ぶ実習を経て、幼稚園教諭免許と保育士資格を取得して卒業している。しかしながら、少子化時代に生まれ育ち、自身も子どもと関わる経験が豊富とは言えない学生たちにとっては、本事業から新たに得たものは大きい。通常の実習とは異なる経験となっており、より豊かな子ども理解と保護者理解、さらには多様な親子支援のあり方への学びに貢献していることが理解できる。

以下の表 7 は、2018 年度の本事業による活動を卒業研究とした学生の卒業論文の一覧である。

表 7 本事業に関わる学生の卒業研究テーマ

	テーマ
①	親子分離と幼児の言動
②	大学生の乳幼児に対するイメージの変容 —「親子支援ひろば ぴっばらん」を通して—
③	入学時と卒業時における学生の子ども理解に関する研究
④	「らくがきゲーム」における養育者間の相互交流 —動画分析を中心に—
⑤	親子分離による母親グループの語り合いの分析

表 7 中の①は、ぴっばらんシリーズにおいて、親子が分離した後の幼児が、どのようなことをきっかけに泣き止むのか、映像記録データを分析している。同じく、②については、子どもと 1 対 1 で密に関わる経験を通して、学生の幼児に対するイメージがどのように変容したかを研究している。③は、本研究で得た映像記録データを活用して、学生の子ども理解が入学時と卒業時とでどのように異なるかを調査し、その反応をカテゴライズしている。さらに、④⑤は、保護者支援プログラムに学生自身も参加した上で、映像記録、及び音声記録データを丹念に分析、カテゴライズを試みた研究である。

各々の学生が、本事業に真摯に向き合い、質的な研究の成果を上げていることが理解できる。

(2) 子ども・子育て支援と、学生の学びの充実化

2016 年から京都市学まち連携補助事業や京都女子大学内における教育機器備品予算、FD 活動予算、教育活動予算等を得て、子育て支援ルームを開設し、子ども・子育て支援を学科全体で行ってきた。

2020 年度には、その活動の一部が、「子ども・子育て支援演習 I」として講義化するほか、カリキュラム変更にもなって、体系的に子ども・子育て支援が学べるようになる予定である（表 8）。

子ども・子育て支援の実践においては、今、まさに親子が直面している現実をリアルタ

表8 新カリキュラムにおける子ども・子育て支援に特化した学びのイメージ

		知 識	理 論	実 践： 「ぴっぱらんど」を基にした活動	より専門的な実践・研究： 「ぴっぱらんシリーズ」
1 回生	前期			(希望者は補助として参加)	(希望者は補助として参加)
	後期		教育心理学Ⅱ	(希望者は補助として参加)	(希望者は補助として参加)
2 回生	前期		発達心理学Ⅱ（子ども 家庭支援の心理学）	子ども・子育て支援演習Ⅰ	(希望者は補助として参加)
	後期	子ども家庭 支援論			
3 回生	前期			子ども・子育て支援演習Ⅱ	児童学専門演習 子ども・子育て支援ゼミ
	後期		子育て支援		
4 回生	前期				児童学研究演習 子ども・子育て支援ゼミ
	後期				
卒業	幼稚園、認定こども園、保育所、児童館、子育て支援関連機関、関連企業、進学				

イムに捉えた上で、実際の親子に貢献していくことが求められる。

その実践には、幼児教育や保育に関わる分野、心理学、医学、社会学など多領域の知見の応用が必要とされている。

ぴっぱらん活動において学生は、専門家の間でも、長らく重要なテーマとして議論されている多（他）職種間の協働や連携という複雑な活動の一端を担っているのである。

まず、3回生時において、親子と密に関わり、しっかり寄り添う経験を通して直接的に多くのことを学んでいく。

次に、4回生時には、自らも経験した活動を客観的に捉え直し、観察・記録化した映像や音声データをもとに分析・研究を行う。

子ども・子育て支援は、その必要性が認識され、実施されるようになってから、わずか20年あまりしか経過していない新しい実践・研究分野である。

従って、実際の保育現場や子ども・子育て支援関係の現場では、1人1人の支援者が上述したような多岐にわたる分野の知見を同時に駆使しながら活動を展開していく必要がある。

保育者養成課程においては、学生がこの複雑な活動を段階的に学んでいくことができるような工夫が必要である。このため、2回生時には「子ども子育て支援演習Ⅰ」を開設することになっている。

今回の調査結果については、学年ごとのデータ分析、自由記述欄の分析などをさらに行い、保育者養成課程における子ども・子育て支援活動のさらなる充実、発展を考えていく予定である。

引用

前川由梨奈 (2017) ぴっぱらんキャラクター. 瀬々倉玉奈 (2018) 乳幼児期の子ども・子育て支援実践と支援者養成—京都女子大学 親子支援ひろば ぴっぱらん—. 京都市「学まち連携大学」促進事業活動報告書 2017. p. 17

文献

瀬々倉玉奈・大江文子 (2019) 保育者養成課程における親子支援の実践と支援者教育—赤ちゃんとの接触・育児経験に関する調査結果をもとに—. 京都女子大学発達教育学部紀要. 15, pp. 109-120

瀬々倉玉奈 (2019) 保育者養成課程における子ども・子育て支援の枠組—親子支援ひろば「ぴっぱらんど」の実施準備—京都女子大学教職支援センター研究紀要第1号. 京都女子大学教職支援センター. pp. 53-59

瀬々倉玉奈 (2018) 乳幼児期の子ども・子育て支援実践と支援者養成—京都女子大学 親子支援ひろば ぴっぱらん—. 京都市「学まち連携大学」促進事業活動報告書2017. pp. 17-19

瀬々倉玉奈 (2017) 乳幼児期の子ども・子育て支援実践と支援者養成 —京都女子大学 親子支援ひろば ぴっぱらん—. 京都女子大学地域連携研究センター Annual Report 2017. pp. 17-19